

ボツワナ共和国月報(2023年12月)

主な出来事

【内政】

- 選挙人登録を巡るUDCとIECの法廷闘争一区切り

【外政】

- マシシ大統領、ドバイでのCOP28に出席
- マシシ大統領、米国を訪問
- マシシ大統領、モザンビークを訪問
- シャムクニ司法大臣、第22回国際刑事裁判所ローマ規程締約国会議会合に出席
- ボツワナ、アルメニア共和国と国交樹立

【経済】

- 政策金利引下げ-2.4%へ引下げ-
- 野菜輸入禁止措置の延長と禁止品目の追加
- IPPによる炭層メタン発電事業
- マンガン採掘の開始
- 燃料価格値下げ改定
- 公的債務割合(対GDP比)(2023年第2四半期)
- 2023年第3四半期(Q3)労働統計
- 11月インフレ率-前月比で0.8%の上昇-
- 10月国際商品貿易統計-ダイヤモンド輸出額はコロナ禍に匹敵する低水準-
- 2023年第3四半期電力統計
- 2023年第3四半期鉱業統計

【内政】

- 選挙人登録を巡るUDCとIECの法廷闘争一区切り

2024年総選挙の選挙人登録がUDCによる提訴により延期される中、右延期の暫定命令を争う控訴審裁判で、裁判所は19日、UDCの主張する選挙登録監視は憲法上の規定がないとし、暫定命令を破棄した。それに伴い、選挙人登録のプロセスが再度開始されることになり、21日、政府は2024年1月5日～2月3日まで選挙人登録を実施する旨を発表した。

【外政】

- マシシ大統領、ドバイでのCOP28に出席

1日、マシシ大統領は第28回気候変動枠組条約締約国会議(COP28)に参加するためドバイを訪問した。同大統領はアフリカ気候モビリティ・フラッグシップ・プログラムの知識・データ担当議長として、「アフリカにおける気候危機と人間居住のネクサスへの取

組：技術を通じた気候の影響によるさらなる損失と損害の防止」と題するハイレベルイベントを主催する他、内陸開発途上国(LLDCs)議長としてLLDCs関連会合を共催した。

○ マシシ大統領、米国を訪問

11日～18日、マシシ大統領は米国を訪問した。詳細な日程等は公開されていないが、様々な利害関係者を含めた、ボツワナの社会経済開発アジェンダを推進する戦略的パートナーシップの可能性を探るための訪問であったとされている。

○ マシシ大統領、モザンビークを訪問

30日、マシシ大統領は、SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)に参加するボツワナ部隊を訪問し、兵士を激励した。本訪問にはクワペ外務大臣、レサソ教育副大臣、モンナッコトラ地方自治副大臣等が同行した。

○ シャムクニ司法大臣、第22回国際刑事裁判所ローマ規程締約国会議会合に出席

4日～14日、シャムクニ司法大臣は、ボツワナ代表団を率いて、ニューヨークで開催された第22回国際刑事裁判所ローマ規程締約国会議会合に出席した。同会議の傍ら、シャムクニ大臣は、カリム・カーンICC検察官、ピョートル・ホフマンスキー裁判所長、ザバラ・ギラー裁判所登録官、南アフリカのロナルド・ラモラ司法大臣と会談を行った。

○ ボツワナ、アルメニア共和国と国交樹立

14日、クワペ外務大臣はアルメニアのアラト・ミルゾヤン外相と共同コミュニケに署名し、これによりボツワナはアルメニア共和国と外交関係を樹立した。調印式は、内陸開発途上国(LLDCs)閣僚会議のサイドラインで、アルメニアのエレバンで行われた。ボツワナ政府の声明によると、両国は共通の価値観を有し、多国間主義、人権、平和、民主主義、持続可能な開発を支持している。

【経済】

○ 政策金利引下げ-2.4%へ引下げ-

7日、ボツワナ銀行は、金融政策会合(MPC)を開催し、政策金利(MoPR)を2.65%から2.4%へ引き下げることを選定した。同行は、引下げの理由として、インフレの鎮静化により、インフレが中長期インフレ目標(3%から6%)の範囲に収まっていること、経済成長の鈍化、弱い内需・世界経済活動としている。政策金利の改定は2022年10月以来、1年2か月振り。

○ 野菜輸入禁止措置の延長と禁止品目の追加

政府は、今年12月末で期限を迎える17品目(注1)の野菜輸入禁止を2024年1月1日

から2025年12月末まで2年間延長するとともに、2024年7月1日から追加16品目（注2）の野菜についても輸入禁止することを決定した。

注1：トマト、人参、ビートルート、ジャガイモ、キャベツ、レタス、ニンニク、玉ネギ、生姜、ウコン、唐辛子、バターナッツ、西瓜、ピーマン、グリーンミーリー、フレッシュハーブ

注2：パティパカンカボチャ、カボチャ、サツマイモ、グリーンピース、スイートコーン、ブロッコリー、カリフラワー、ジェムスクワッシュ、ベビーマロウ、インゲン豆、スイートメロン、マッシュルーム、カラバッシュ、スパンスペック、ナス、オクラ

○ IPPによる炭層メタン発電事業

ボツワナ電力公社（BPC）は、独立発電事業者（IPP）であるセカナミ・エナジー社との間で売電契約に合意した。同社は、ボツワナ中部に位置するママショロ村において炭層メタン（CBM）を用いた6Mワット規模の発電事業を行う。

○ マンガン採掘の開始

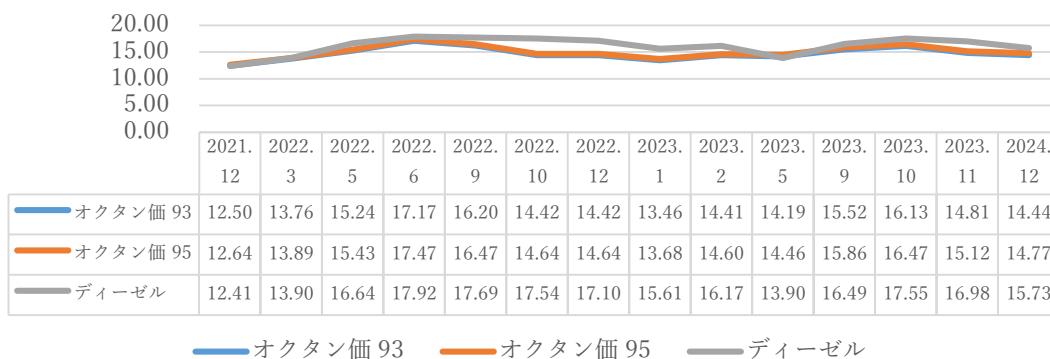
ギヤニ・メタルズ社は、カニエ（ハボローネから南へ80キロの町）近郊に位置するマンガング山の採掘許可申請の準備を進めており、操業開始は2024年末の予定。

○ 燃料価格値下げ改定

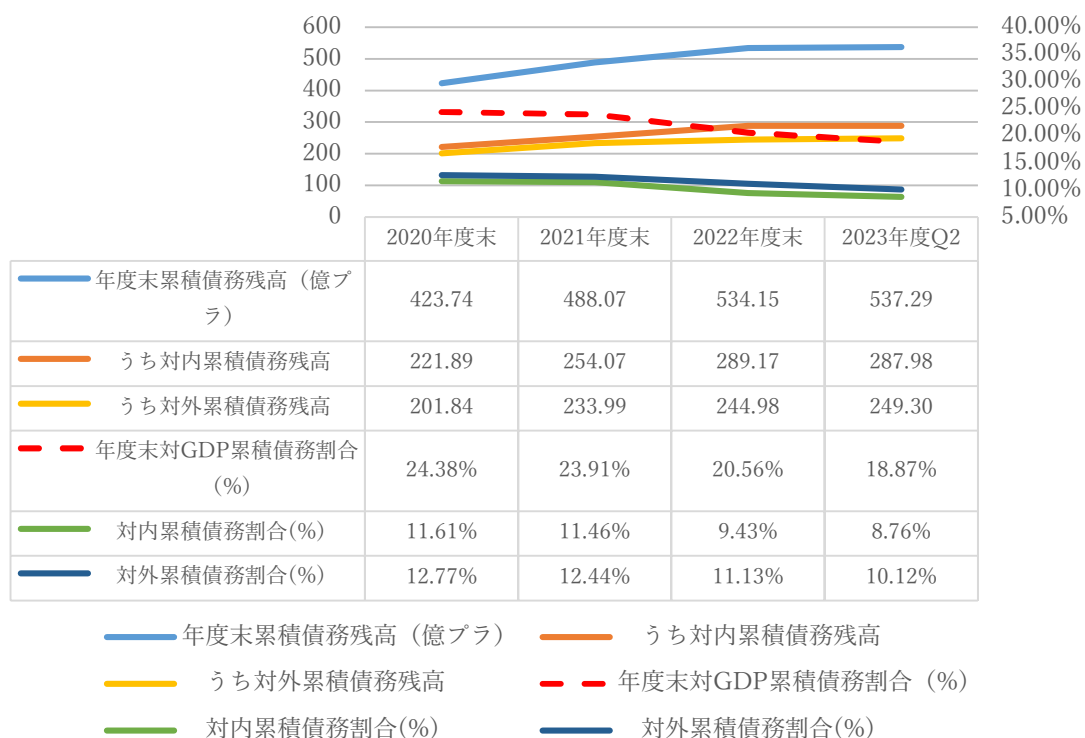
20日、ボツワナ・エネルギー規制庁は、米国及び中国の需要の低下、パレスチナ危機による供給懸念後退などによる国際原油価格の低下から、燃料小売価格を以下のとおり値下げした。改定後の価格は21日より適用される。

| 品目 | 改定後の店頭小売価格（一部地域を除く） |
|---------------|---------------------|
| ガソリン（オクタン価93） | 14.44 プラ/リットル |
| ガソリン（オクタン価95） | 14.77 プラ/リットル |
| ディーゼル | 15.73 プラ/リットル |

（図：最近の燃料小売価格の推移）



○ 公的債務割合(対GDP比)(2023年第2四半期)



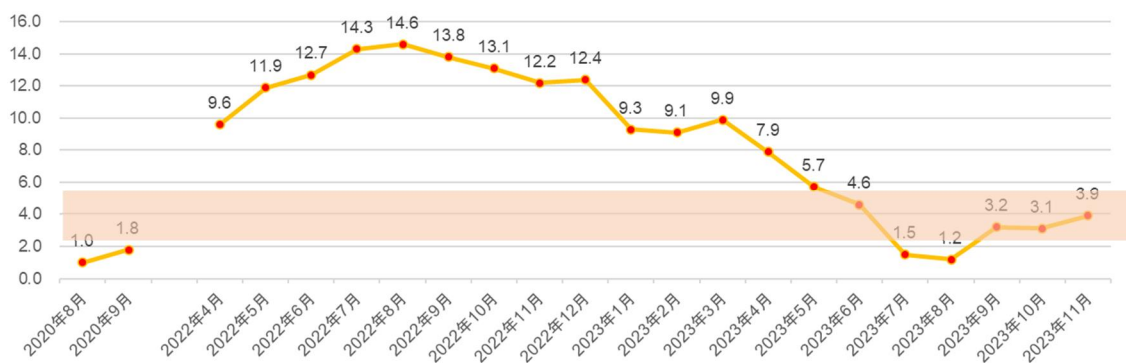
○ 2023年第3四半期(Q3)労働統計

| | 2021 年末 | 2022 年末 | 2023 年 Q3 |
|-----------------|-----------|-----------|-------------|
| 人口(15歳以上) | 1,637,822 | 1,611,892 | 1,673,626 |
| (内:労働力人口) | (969,734) | (962,319) | (1,063,776) |
| 失業率(15歳以上) | 26.0% | 25.4% | 25.9% |
| 若者失業率(15歳から35歳) | 34.4% | 33.5% | 34.4% |
| ニート率 | 39.4% | 39.9% | 38.5% |

○ 11月インフレ率-前月比で0.8%の上昇-

11月の年間インフレ率(前年同月比)は3.9%となり、前月の3.1%から0.8ポイント上昇した。当月の年間インフレ率に大きく寄与したのは、食品・非アルコール飲料(0.9%)と雑貨・サービス(0.8%)、運輸(0.6%)であった。

(図: 近年のインフレ率の推移)

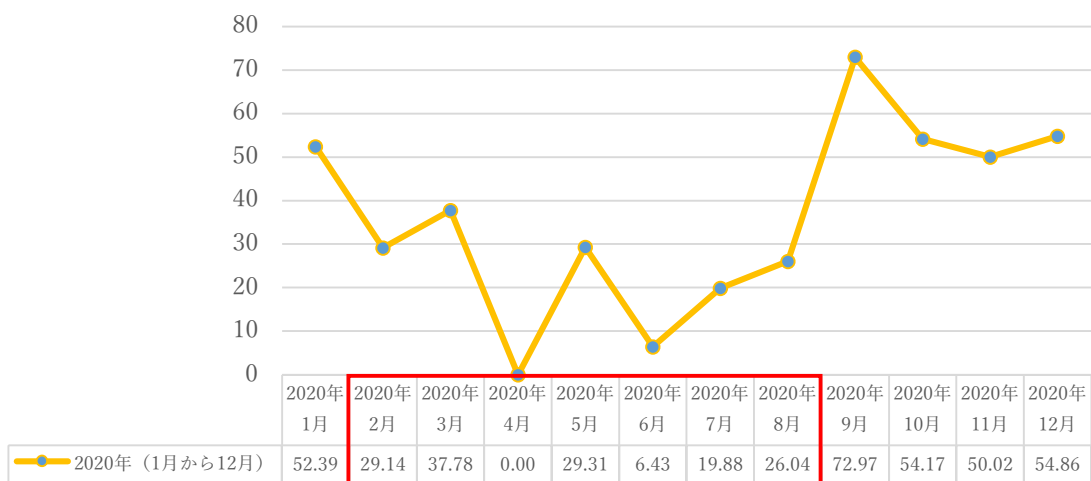


注: ボツワナ銀行中長期インフレ目標(3%から6%)

○ 10月国際商品貿易統計-ダイヤモンド輸出額はコロナ禍に匹敵する低水準-

10月、輸入総額は83億4,200万プラとなり、前月の84億4,030万プラ(改定値)から1.2%減少した。他方、輸出総額は、前月に引き続きダイヤモンド輸出額が低迷したことで、前月の39億6,470万プラから31.6%と大幅に減少し27億990万プラとなった。同月のダイヤモンド輸出額は、12億4,780万プラとコロナ禍の期間の中でも最も輸出の低迷していた時期(2020年2月から8月)に匹敵する低水準(注)となったことによる。結果として、輸出額に占めるダイヤモンドの割合も50%を下回った。

注) 2020年の月別ダイヤモンド輸出額



(分野別内訳: 上位5分野(%))

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|----|-------------|-----------|-------------|------------|-------------|
| 輸入 | 燃料 21.6 | 食料品等 17.5 | ダイヤモンド 16.5 | 機械・電機 12.3 | 化学・皮革 10.0 |
| 輸出 | ダイヤモンド 46.0 | 銅 25.2 | 機械・電機 9.8 | 塩・ソーダ灰 3.7 | 車両・輸送機械 3.3 |

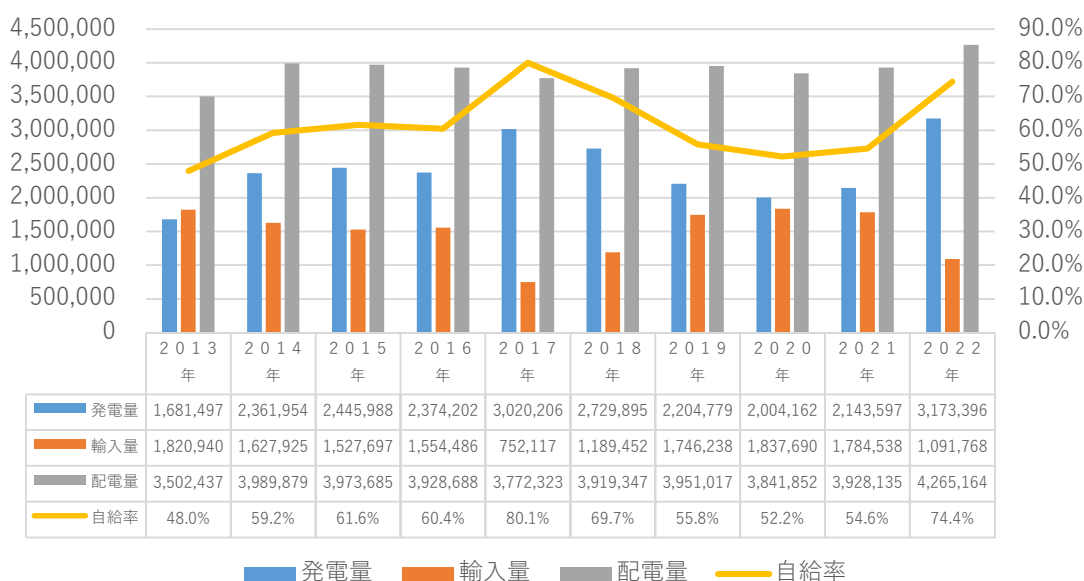
(国別内訳: 上位5か国(%))

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|----|----------|----------|---------|---------|---------|
| 輸入 | 南ア 67.0 | ナミビア 7.3 | カナダ 7.3 | 中国 2.9 | インド 2.4 |
| 輸出 | UAE 21.9 | 南ア 18.9 | 中国 12.8 | 豪州 10.9 | UAE 8.3 |

○ 2023年第3四半期電力統計

第2四半期の発電量は、前四半期(2023年第2四半期)の発電量660,349メガワットから 34.7%増加し889,535メガワットとなった。発電量の増加要因としては、モルプレA及びB石炭火力発電所の稼働状況の改善によるものであり、同月の発電量の97.1%を占めている。

図: 過去10年間の電力統計(単位:メガワット)



○ 2023年第3四半期鉱業統計

第3四半期の主要鉱物の生産量は、前四半期比で、ダイヤモンドは0.4%の増加、銅(銅精鉱)の生産量は前四半期比で7.2%減少となった(図)。

注) 銅・ニッケル・コバルト溶融化合物(MATT)の生産量は2017年以降、ゼロ(N/A)となっており、統計局によれば鉱山の仮清算手続き中であることが理由であるとしている。

図：直近の鉱物別生産量

| | ダイヤモンド (千カラット) | 石炭 (トン) | 金 (キログラム) | 銀 (キログラム) | 銅 (トン) | ソーダ灰 (トン) | 塩 (トン) |
|------------|-------------------|------------|--------------|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 2023年第1四半期 | 6,989 | 644,674 | 70 | 12,582 | 14,872 | 59,040 | 92,107 |
| 2023年第2四半期 | 5,922 | 470,878 | 105 | 11,737 | 14,096 | 45,502 | 71,781 |
| 2023年第3四半期 | 5,944 | 521,535 | 83 | 10,119 | 13,081 | 77,730 | 155,882 |
| 2021年第1四半期 | 5,040 | 516,868 | 174 | n.a. | n.a. | 71,638 | 69,275 |
| 2021年第2四半期 | 5,827 | 485,642 | 186 | n.a. | n.a. | 57,962 | 101,776 |
| 2021年第3四半期 | 6,500 | 549,227 | 176 | 6,757 | 7,517 | 65,195 | 169,826 |
| 2021年第4四半期 | 5,329 | 469,481 | 113 | 3,626 | 4,225 | 67,043 | 143,751 |
| 2021年通期 | 22,696 | 2,021,218 | 649 | n.a. | n.a. | 261,838 | 484,628 |
| 2022年第1四半期 | 6,299 | 547,921 | 122 | 5,178 | 7,363 | 75,241 | 59,714 |
| 2022年第2四半期 | 5,576 | 599,474 | 150 | 7,542 | 10,619 | 61,647 | 54,124 |
| 2022年第3四半期 | 6,726 | 662,262 | 83 | 8,507 | 12,580 | 82,224 | 135,831 |
| 2022年第4四半期 | 5,878 | 651,211 | 71 | 9,947 | 13,707 | 66,103 | 73,634 |
| 2022年通期 | 24,479 | 2,460,868 | 426 | 31,174 | 44,269 | 285,215 | 323,303 |

(了)